

令和3年5月26日 午後3時00分から
区役所8階 特別会議室

令和3年度第1回 足立区環境審議会資料

<審議事項>

- | | | |
|-------|------------------------------|-------|
| 審議事項1 | 国、都の温室効果ガス排出量削減目標と区の取り組みについて | ・・・1 |
| 審議事項2 | 区内の食品ロス量の推計について（案） | ・・・2 |
| 審議事項3 | 環境基本計画各施策群の目標と指標（案）の見直しについて | ・・・4 |
| 審議事項4 | 環境基本計画第1章から第4章（案）について | ・・・15 |

<報告事項>

- | | | |
|-------|----------------------|-------|
| 報告事項1 | 区内の二酸化炭素排出量の算定結果について | ・・・17 |
| 報告事項2 | 環境基金審査会の審査結果について | ・・・21 |

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 別紙1 | 2030、2050に向けた国、都、区を取組・目標【審議事項1関連】 |
| 別紙2 | 環境基本計画第1章から第4章（案）【審議事項4関連】 |

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件名	国、都の温室効果ガス排出量削減目標と区の取り組みについて
所管部課名	環境部環境政策課
	<p>政府は4月22日の地球温暖化対策推進本部にて2030年の温室効果ガス排出削減目標を46%（2013年度比）とすることを表明した。また、夏までに新たなエネルギー基本計画をまとめるとしている。</p> <p>東京都も2030年までに温室効果ガスを2000年度比で半減させる「カーボンハーフ」を表明している。</p> <p>2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ実現のためには、今後10年の取り組みが極めて重要となる。</p> <p>計画の検討のため、国や東京都の方針や目標値と区の取り組み案について【別紙1】に一覧をまとめた。</p> <p>環境審議会のご意見をいただき、現在、見直し案を作成している環境基本計画に温室効果ガス排出実質ゼロ実現に向けた区の取り組みを盛り込んでいく。</p>

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件名	区内の食品ロス量の推計について（案）			
所管部課名	環境部ごみ減量推進課			
内 容	<p>前回の審議内容を踏まえ、区内事業系食品ロス量の算定方法について、東京23区清掃一部事務組合の組成調査結果を活用し、3,000㎡以上の大規模事業所に対し、7月中の集計完了を目途としてアンケート調査を行っていく。</p> <p>1 食品ロスの推計量（令和元年度）</p> <p>事業系食品ロス推計量のうち、小・中規模事業所は <u>1,550 t</u> (1,364 t +186 t)、家庭系食品ロス推計量は <u>7,519 t</u> となる。</p> <p>一般廃棄物の発生量および食品ロス推計量（令和元年度）</p>			
		ごみ量	排出元	食品ロス推計量
	持込ごみ	19,361 t 大規模事業所のごみ量 (延床面積 3,000㎡以上)	大規模事業所 432カ所 ※1	<u>アンケート調査を行い、食品ロス量と割合を把握する。</u>
		24,804 t 足立清掃工場に搬入された廃棄物量 (44,165 t)のうち、上記の(19,361 t)を除いたもの	中規模事業所 604カ所 ※2 小規模事業所 30,142カ所 ※3	<u>1,364 t</u> 東京二十三区清掃一部事務組合の調査した食品ロス割合(5.5%)を乗じて推計
		小計 44,165 t		
	区収集の燃やすごみ	4,894 t 事業系有料ごみ処理券の販売数より推計※4		<u>186 t</u> 区組成調査の食品ロス割合(区収集ごみ3.8%)を乗じて推計
121,276 t 区収集の燃やすごみ量(126,170t)から上記の(4,894t)を除いたもの		家庭ごみ	<u>7,519 t</u> 区組成調査の食品ロス割合(家庭ごみ6.2%)を乗じて推計	
	小計 126,170 t			
	合計 170,335 t		<u>9,069 t (暫定値)</u>	

- ※1 「足立区廃棄物の処理及び再利用に関する条例」で再利用計画書の提出を義務付けている事業用大規模建築物の事業所の内、延床面積が3,000㎡以上の数。
- ※2 ※1の条例で義務付けられている事業所の内、延床面積が1,000～2,999㎡の数。
- ※3 経済センサスによる区内事業所数（令和元年度）31,178カ所から（※1）および（※2）を除いて推計した数。
- ※4 従業員20人以下かつ1回あたりの排出量が90ℓ以下の事業者は、有料ごみ処理券を貼付することで区収集ごみとして排出できる。

2 大規模事業者へのアンケート調査について

東京二十三区清掃一部事務組合が組成調査を行っていない3,000㎡以上の規模の区内事業所に対して、主に以下の項目についてアンケート調査を行い、実態を把握する。

- (1) 食品ロスの把握の有無（発生量・原因・処分先等）
- (2) 事業所としての食品ロス削減の取り組み
- (3) 食品ロス削減をするために必要と考える行政からの支援

3 今後の方針について

- (1) 令和2年度の区の組成調査はコロナ禍により未実施である。
このため、令和元年度の区の組成調査結果および今後実施する大規模事業者へのアンケート調査結果により、令和元年度の区全体の食品ロス量の推計を行う。
- (2) 令和3年度の区の組成調査は実施予定であり、3年度以降も食品ロス量の推計を行っていく。

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件名	環境基本計画各施策群の目標と指標（案）の見直しについて
所管部課名	環境部環境政策課
	<p>前回の審議会ですいただいた意見を踏まえ、環境基本計画の各施策群の目標と指標（成果指標、活動指標）について、5ページから11ページにまとめた。</p> <p>目標数値、具体的な取り組みについては、2020年度の実績を踏まえ、次回以降の審議会にお示しし、ご審議いただくことを予定している。</p>

指標修正案

成果指標 (■) と活動指標 (●)

緑: 緑の基本計画

世論: 世論調査

現: 現行計画

柱1 地球温暖化・エネルギー対策

	計画案	審議会での意見・提案	検討結果・意見の反映
1-1			
施策群	エネルギーの効率的な利用		
目標	エネルギーを効率的に使うことで、二酸化炭素排出を減らす		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■区内のエネルギー使用量 ●助成制度による省エネ支援件数 ●省エネルギーを心がけている区民の割合 	区の事業による排出削減効果量を示すべき	補助のメニューによっては排出削減効果量の数値化は困難となる。今後対象となる補助メニューを検討する（現状は省エネリフォーム助成、節水型トイレ設置助成が対象）。
1-2			
施策群	再生可能エネルギーの利用拡大		
目標	二酸化炭素排出量が少ないエネルギー源に切り替えて、排出量を減らす		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■再生可能エネルギーの導入量（累計） ●区の助成による年間の太陽光発電の導入量 ●区内の再生可能エネルギーの年間導入量 	二酸化炭素排出削減効果量を示すべき	<p>削減効果量を示すことが可能なため、成果指標を「再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量」に変更する。</p> <p>活動指標を「再生可能エネルギーの導入量（累計）」に変更する。</p>

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
1-3 一部を1-4へ分離			
施策群	二酸化炭素吸収量を増やす取組みの推進		
目標	二酸化炭素吸収量を増やすことで実質ゼロにつなげる		
指標	<p>■<u>国内の二酸化炭素吸収量</u></p> <p>●区や区民の支援・整備による二酸化炭素吸収量</p> <p>●<u>緑化活動に参加したいと思う区民の割合</u></p>	<p>吸収量を数値で「見える」指標、目標としてほしい</p> <p>客観的で具体的な行動を示す指標にすべき</p>	<p>「区内の二酸化炭素吸収量」に変更する。</p> <p>※吸収量の算出方法については12ページから14ページに記載する。</p> <p>具体的な行動を示す客観的な数値がなく難しい。</p> <p>「実際に参加した区民の割合」へ変更する。 緑</p>
1-4 1-3の一部を分離して新設			
施策群	気候変動による被害の回避・軽減		
目標	暑熱、気象災害の被害を少なくする		
指標	<p>■<u>熱中症や気象災害による死者数</u></p> <p>●熱中症で搬送される患者数</p> <p>●<u>足立区洪水ハザードマップを見たことがある区民の割合</u></p>	<p>ハザードマップを見てどう行動するか、準備するかが重要</p>	<p>避難に備えた準備について確認する項目とするため、「河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合」に変更する。 世論</p>

柱2 循環型社会の構築

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
2-1			
施策群	リデュースとリユースの推進		
目標	廃棄物の量を減らす		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■区が把握できる廃棄物の量 ●区内のごみ量（現行2-3） ●<u>マイバッグを使うなどして不要なレジ袋を断っている区民の割合</u> 	<p>区民1人あたりのごみ量を示すべき</p> <p>廃棄物の量を減らすことが目的であれば別の指標にすべき</p>	<p>区内のごみ量と区民1人当りに換算したごみ量の両方を示すことでわかりやすくするため活動指標2を「<u>1人1日あたりの家庭ごみ排出量</u>」に変更する。現</p>
2-2			
施策群	廃棄物の適正な排出と処理		
目標	分別ルールに基づき排出された廃棄物を効率的に収集し、処理する		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>燃やすごみに含まれる資源化物の割合</u> ●適正排出のための指導件数（家庭系+事業系） ●<u>雑紙を燃やすごみでなく、資源として出している区民の割合</u> 	<p>割合だけでなく分母となるごみ量も併せて記載すべき</p> <p>雑紙の表記や意味を分かりやすくすべき</p>	<p>資源化物の混入割合を示すため、併せてごみ量の記載はせず、指標の算出根拠等としての記載を検討する。</p> <p>読み仮名と例示により、わかりやすく記載する。</p>

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
2-3			
施策群	持続可能な資源利用への転換		
目標	事業者との連携により、廃棄物の資源化を進める		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■資源化率（現行2-2） ●資源化品目数 ●リサイクル商品を選ぶ区民の割合 	「リサイクル商品」を分かりやすくすべき	世論調査項目である「 <u>環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合</u> 」に変更する。世論

柱3 現行 : 安全・安心で快適なくらしの確保
見直し案 : 生活環境の維持・保全

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
3-1			
施策群	生活環境の保全と公害対策の推進		
目標	法令に基づく指導、対策と苦情への対応により、生活環境を維持・改善する		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■公害苦情の相談件数 ●公害苦情相談の解決率 ●アスベスト、土壌汚染の法令違反件数 		

3-2			
施策群	快適で美しいまちづくり		
目標	地域の美化活動や不法投棄・ごみ屋敷対策により、きれいなまちをつくる		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合 ●ごみゼロ地域清掃活動の参加者数 ●不法投棄処理個数 		

柱4 自然環境・生物多様性の保全

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
4-1 (現行の4-1と4-2を統合)			
施策群	自然や生物多様性に対する理解の促進(4-1と4-2を統合)		
目標	自然や生物とのふれあいを通じて、生物多様性の大切さを理解する		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合</u> ● 生物とふれあう事業の参加者数 ● 自然や生物に関する情報発信回数 	生息している野鳥や魚類の数などを指標にしてはどうか	<p>生物多様性の専門家に確認したところ、個体数の正確な把握は困難であり、生物多様性そのものの状態を把握する指標となってしまうため、施策群の目標と方向性が合わなくなってしまうのではないかと意見があった。</p> <p>個体数はその年ごとの気候によっても、数値が変化してしまい、外来種が混在する数値を指標にすることで、多様性や豊かさの基準が分かりにくくなってしまうことも考えられる。このため、現状は指標を案のままとし、次回の基本計画改訂に向け、今後も引き続き専門家の意見を聞きながら指標に組み込むかについて検討していく。</p>
4-2 (現行の4-3を繰り上げ)			
施策群	自然環境の保全と創出		
目標	身近な自然環境を守り、増やす		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちなかの花や緑が増えていると感じる区民の割合 ● 保存樹林指定箇所数 ● 緑豊かな景観形成に取り組む団体・区民の数 		

柱5 学びと行動のしくみづくり

	3月審議会計画案	意見・提案	検討結果・意見の反映
5-1 (現行の5-1と5-2を統合)			
施策群	環境意識の向上と行動する人材の育成(5-1と5-2を統合)		
目標	高い環境意識を持って行動する人を増やす		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■環境への負荷を考えて行動する必要があると答えた区民の割合 ●環境に関する情報発信回数 ●環境学習プログラムに参加し、修了した人の数(累計) 		<u>「環境への負荷を考えて具体的に行動している区民の割合」</u> に変更する。世論
5-2 (現行の5-3を繰り上げ)			
施策群	環境保全活動の拡大		
目標	環境配慮行動に取り組む人を増やし、活動を広げていく		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ■自主的な環境保全活動数 ●区が実施する環境配慮を促す事務事業の数 ●エコ活動ネットワーク足立の登録団体数 		

※足立区内における温室効果ガスの吸収量の推計について

温室効果ガスの吸収量は、地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編（環境省、平成 29 年 3 月）の「2-4-2. 都市緑化の推進による温室効果ガス吸収量の推計」に基づいて算定した。

1 推計にあたって

(1) 推計にあたっての前提（上記マニュアルより）

- ・ 緑地の生体バイオマスのみを対象とする（枯死有機物及び土壌の炭素蓄積変化量は対象外）。
- ・ 推計の活動量に面積を用いる場合と、高木植栽本数を用いる場合がある。
- ・ 高木は、成長期間にある 30 年生以内の木のみ対象とする（造成・指定・植栽後 30 年を超えたものは対象外）。
- ・ 低木は対象外とする。

(2) 活動量が面積の場合の対象緑地

- ・ 都市公園
- ・ 港湾緑地
- ・ 下水道処理施設における外構緑地
- ・ 河川・砂防緑地
- ・ 官庁施設外構緑地
- ・ 公的賃貸住宅地内緑地
- ・ 特別緑地保全地区

表 単位面積当たりの年間生体バイオマス成長量

都市緑地種類	単位	単位面積当たりの年間生体バイオマス成長量		出典
		北海道	北海道以外	
都市公園	t-C/ha /年	3.229	2.334	わが国の調査結果から設定された独自の吸収係数
港湾緑地	t-C/ha /年	3.229	2.334	
下水道処理施設における外構緑地	t-C/ha /年	1.272	4.507	
河川・砂防緑地	t-C/ha /年	14.414	3.560	
官庁施設外構緑地	t-C/ha /年	1.066	1.142	
公的賃貸住宅地内緑地	t-C/ha /年	2.155	2.309	2006 年 IPCC ガイドラインにおけるデフォルト吸収係数
特別緑地保全地区	t-C/ha /年	2.9		

出典：「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編」

(3) 活動量が項目植栽本数の場合の対象緑地

- ・ 道路緑地
- ・ 緑化施設整備計画認定緑地
- ・ 民有地における高木植栽

道路緑地、緑化施設整備計画認定緑地の年間生体バイオマス成長量

施設緑地種類	単位	高木1本当たりの 年間生体バイオマス成長量	
		北海道	北海道以外
道路緑地	t-C/本/年	0.0103	0.0108
緑化施設整備計画認定緑地	t-C/本/年	0.0098	0.0105

出典：「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編」

2 温室効果ガス吸収量の推計

(1) 活動量が面積の場合の対象緑地

以下の資料をもとに算定した。

内容	参考資料
都市公園	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「数字で見る足立」R2年度版（土木・建築） 12 公園・児童遊園及び緑道設置状況 公園：3,148,571 m² (314.86ha) ※ 児童遊園、プチテラスは都市公園に含めていない。
港湾緑地	
下水道処理施設における外構緑地	
河川・砂防緑地	
官庁施設外構緑地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「第三次足立区緑の基本計画」 公共施設全体の樹木被覆地率：11.5% ■ 「数字で見る足立」R2年度版（執行機関） 4 区有財産現況 行政財産 土地：3,160,413.96 m²
公的賃貸住宅地内緑地	
特別緑地保全地区	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「第三次足立区緑の基本計画」 特別緑地保全地区：2箇所、0.43ha ※ 保存樹林、保存樹木は30年以上経過しているものが大半との判断から対象としていない。 ■ 「第三次足立区緑の基本計画」 保存樹林：25箇所、4.69ha 保存樹木：532本

項目	面積 (ha)	年間生体 バイオマス成長量 (t-C/ha・本/年)	温室効果ガス吸収 量 (t-CO2/年)
都市公園	314.86	2.334	2,695
港湾緑地	—	2.334	—
下水道処理施設 における外構緑地	—	4.507	—
河川・砂防緑地	—	3.560	—
官庁施設外構緑地	36.34	1.142	152
公的賃貸住宅地内緑地	—	2.309	—
特別緑地保全地区	0.43	2.900	5
合計			2,851

※官庁施設外構緑地 = ha
 = 行政財産土地 (m² × 樹木被覆地率 () %

(2) 活動量が高木植栽本数の場合の対象緑地

以下の資料をもとに算定した。

内容	参考資料
道路緑地	■ 「数字で見る足立」 R2 年度版 (土木・建築) 11 街路樹の種類別状況 総数：22,560 本
緑化施設整備計画認定緑地	
民有地における高木植栽	■ 「第三次足立区緑の基本計画」 優良緑化件数 (令和3年度からの取り入れる制度のため数値なし)

※ 活動量が面積で示される場合、道路緑地の単位面積当たりの高木本数の値 329.5 本/ha を用いて換算する。

項目	高木植栽本数 (本)	年間生体 バイオマス成長量 (t-C/ha・本/年)	温室効果ガス吸収 量 (t-CO2/年)
道路緑地	22,560	0.0108	893
緑化施設整備計画 認定緑地	—	—	—
民有地における 高木植栽	—	0.0105	—
合計			893

以上のことから、現在の温室効果ガスの吸収量は、およそ **3,744t-CO₂/年** であり、これは 2018 年度の温室効果ガス排出量 2,318,000t-CO₂/年の 0.16% に相当する。また、2018 年度の二酸化炭素排出量は 2,146,000 t-CO₂/年であり、その 0.17% に相当する。

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件名	環境基本計画第1章から第4章（案）について
所管部課名	環境部環境政策課
	<p>前回の環境審議会で提示した環境基本計画の構成のうち、第1章から第4章の基本事項について案を【別紙2】まとめた。今後、環境審議会のご意見を踏まえ、内容やレイアウトを調整していく。</p> <p>第1章 計画の基本的事項（1ページから4ページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計画の目的 2 計画の位置づけ 3 対象とする環境の範囲 4 計画の期間と評価 <p>第2章 計画改定の背景（5ページから17ページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国内外の動向 2 区の動向 3 現行計画の進捗状況 <p>第3章 CO₂排出実質ゼロの2050年に向けて（18ページから20ページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今後の課題 2 方向性 <p>第4章 計画の体系（21ページから25ページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 足立区基本構想における将来像 2 環境の視点から目指す姿 3 計画の基本体系 <p>第5章 各柱の施策</p> <p>目標、現状、課題、施策、指標（目標値）、 区の率先行動、区民・事業者等の役割などを柱ごとに記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 柱1 地球温暖化・エネルギー対策 柱2 循環型社会の構築 柱3 生活環境の維持・保全 柱4 自然環境・生物多様性の保全 柱5 学びと行動のしくみづくり <p>第6章 環境基本計画に含む計画等</p> <p>法律に基づく計画等を整理し、再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足立区地球温暖化対策実行計画 ・ （仮称）足立区における気候変動の影響に備える計画

- ・ (仮称) 足立区食品ロス削減推進計画
- ・ (仮称) 足立区プラスチックごみ削減方針
- ・ 足立区生物多様性地域戦略
- ・ 足立区環境教育等行動計画

第7章 計画の進行管理

第8章 環境保全行動指針

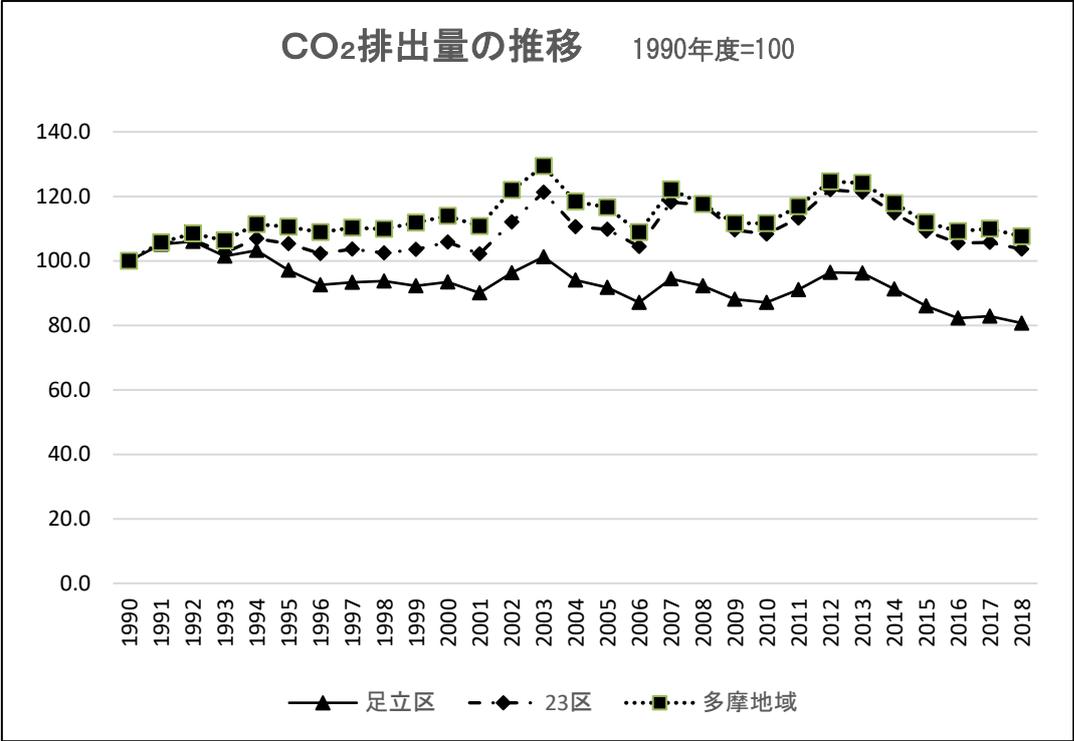
今回の審議会では上記の構成のうち、第1章から第4章の案についてご審議いただく。

また、前回の審議会において、「(仮称) 食品ロス削減推進計画」「(仮称) プラスチックごみ削減方針」について第5章の柱2、施策群2-4、2-5として掲載する旨の説明を行ったが、食ロス削減、プラスチックごみ削減は、柱2、施策群2-1から2-3に横断的に関係する要素となっている。

このため施策群を新設しても内容の一部が他の施策群と重複してしまうため、2-4、2-5という形で掲載はせず、第5章の柱2に現状と課題を記載し、第6章に計画を再掲する形で整理することとしたので報告する。

第5章以降の案および各指標の目標値、施策と具体的な取り組みについては次回以降の審議会にお示しし、ご審議いただくことを予定している。

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件名	区内の二酸化炭素排出量の算定結果について																				
所管部課名	環境部環境政策課																				
内容	<p>オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」から2018年度の二酸化炭素（以下「CO₂」という。）排出量の算定結果が送付されたので、概要を報告する。</p> <p>1 足立区と23区、多摩地域のCO₂排出量 単位：万トン</p> <table border="1" data-bbox="389 703 1485 969"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018年度 排出量</th> <th>前年度比</th> <th>2013年度比</th> <th>1990年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足立区</td> <td>214.6</td> <td>▲2.5%</td> <td>▲16.1%</td> <td>▲19.3%</td> </tr> <tr> <td>23区</td> <td>4,275.9</td> <td>▲2.0%</td> <td>▲14.5%</td> <td>3.6%</td> </tr> <tr> <td>多摩地域</td> <td>1,408.4</td> <td>▲2.2%</td> <td>▲13.3%</td> <td>7.6%</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">CO₂排出量の推移 1990年度=100</p> <p style="text-align: center;">▲ 足立区 -◆- 23区 ...■... 多摩地域</p>		2018年度 排出量	前年度比	2013年度比	1990年度比	足立区	214.6	▲2.5%	▲16.1%	▲19.3%	23区	4,275.9	▲2.0%	▲14.5%	3.6%	多摩地域	1,408.4	▲2.2%	▲13.3%	7.6%
	2018年度 排出量	前年度比	2013年度比	1990年度比																	
足立区	214.6	▲2.5%	▲16.1%	▲19.3%																	
23区	4,275.9	▲2.0%	▲14.5%	3.6%																	
多摩地域	1,408.4	▲2.2%	▲13.3%	7.6%																	

都内区市別CO₂排出量上位30自治体 (2018年度 単位：万トンCO₂)

1 港	374.0	11 江戸川	202.1	21 文京	111.2
2 大田	291.1	12 品川	189.6	22 墨田	111.0
3 江東	280.5	13 板橋	188.9	23 目黒	101.0
4 千代田	278.0	14 練馬	180.7	24 府中	97.9
5 新宿	270.2	15 杉並	151.1	25 中野	89.9
6 世田谷	263.7	16 豊島	141.6	26 多摩	70.4
7 足立	214.6	17 葛飾	135.8	27 立川	69.4
8 八王子	210.6	18 町田	116.0	28 調布	67.3
9 中央	208.5	19 北	113.3	29 荒川	62.9
10 渋谷	204.7	20 台東	111.6	30 日野	60.2

2 2018年度の部門別のCO₂排出割合

	産業	家庭	業務	自動車	その他
足立区	9.6%	38.7%	24.3%	19.9%	7.5%
23区	5.8%	31.3%	43.6%	12.4%	6.9%
多摩地域	12.3%	37.3%	30.7%	15.5%	4.2%

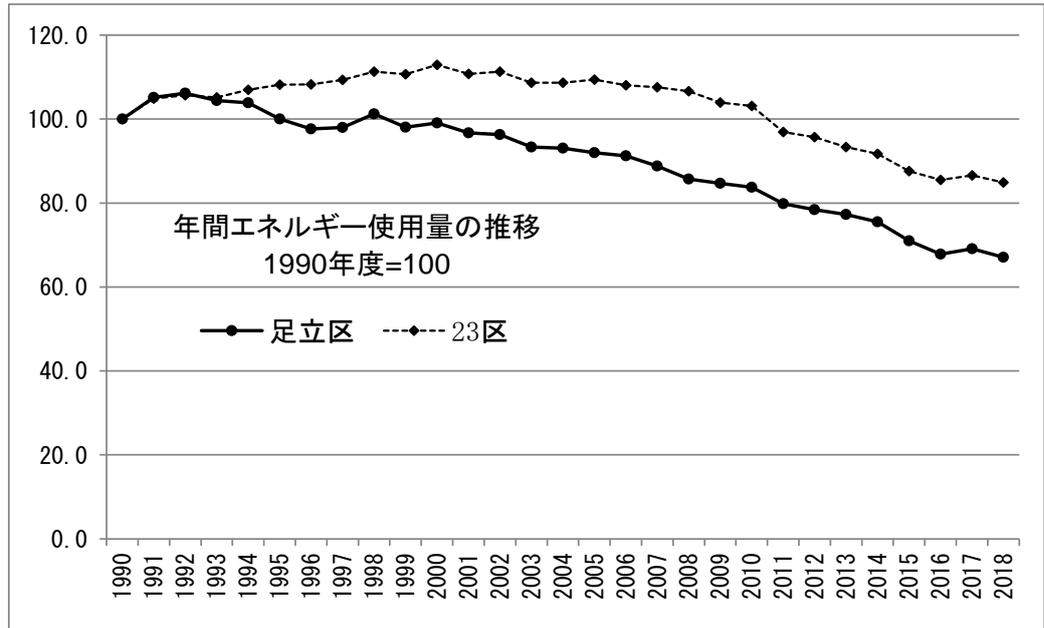
3 足立区のCO₂排出量の部門別推移

単位：万トン

	2013 基準年 度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	基準年度比 増減率	2018年度 排出量の 都内順位
農業水産業	0.2	0.1	0.1	0.1	▲50.0%	28位
建設業	5.6	3.4	3.9	4.2	▲25.0%	6位
製造業	19.0	17.3	16.7	16.3	▲14.2%	6位
産業部門計	24.8	20.8	20.8	20.6	▲16.9%	5位
家庭	98.9	84.5	87.3	83.1	▲16.0%	4位
業務	61.1	53.3	52.0	52.2	▲14.6%	14位
民生部門計	159.9	137.8	139.3	135.3	▲15.4%	11位
自動車	54.5	44.5	44.2	42.7	▲21.7%	2位
鉄道	8.2	7.4	7.3	7.2	▲12.2%	7位
運輸部門計	62.7	51.8	51.5	49.9	▲20.4%	3位
廃棄物部門	8.4	8.2	8.6	8.8	4.8%	3位
総合計	255.8	218.7	220.2	214.6	▲16.1%	7位

※ 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

4 エネルギー消費量の推移



5 部門、燃料別エネルギー消費量の推移

足立区におけるエネルギー消費量（部門・燃料別）

(TJ)

部門・燃料		1990	2000	2005	2010	2013	2014	2015	2016	2017	2018
産業	ガソリン・灯油等	3,980	1,755	1,422	1,097	746	599	568	516	547	565
	都市ガス・LPG等	1,860	1,386	1,435	758	736	730	684	599	577	584
	電力	2,187	975	1,146	926	1,098	966	981	1,071	1,075	1,068
	小計	8,027	4,116	4,003	2,781	2,580	2,294	2,234	2,186	2,200	2,217
家庭	灯油	813	607	582	480	375	425	333	323	388	292
	LPG	1,956	1,247	1,077	1,046	1,277	1,036	517	400	545	518
	都市ガス	2,887	3,589	3,753	3,837	3,779	3,842	3,716	3,816	3,967	3,691
	電力	3,590	4,545	4,739	5,333	4,831	4,622	4,553	4,606	4,730	4,645
	小計	9,245	9,988	10,151	10,696	10,262	9,924	9,118	9,146	9,630	9,146
業務その他	灯油	140	104	85	49	47	43	43	45	44	42
	A重油	309	226	95	39	33	28	30	32	30	30
	LPG	126	162	63	23	21	19	20	19	19	20
	都市ガス	793	1,171	1,628	1,666	1,549	1,519	1,454	1,454	1,452	1,391
	電力	3,448	3,646	3,408	4,195	3,640	3,749	3,389	3,425	3,385	3,472
小計	4,816	5,308	5,279	5,972	5,290	5,358	4,936	4,975	4,930	4,955	
運輸	ガソリン	6,690	8,518	7,821	5,797	4,826	4,853	4,472	4,114	3,939	3,924
	軽油	4,115	4,659	3,088	2,432	2,742	2,524	2,674	2,083	2,116	2,036
	LPG	1,044	1,022	845	648	403	545	505	348	473	325
	天然ガス	0	0	0	0	14	18	16	20	18	15
	電力	591	607	580	600	567	560	554	556	556	556
	小計	12,440	14,806	12,333	9,478	8,552	8,501	8,220	7,120	7,101	6,857
合計	34,528	34,219	31,766	28,926	26,684	26,077	24,507	23,426	23,860	23,175	

6 今後の方針等

2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロに向け、引き続き、設備・機器の買替え助成や、省エネの啓発に加え、区施設での電力契約の見直し、公用車の電気自動車への切り替えの検討を進め、エネルギー使用量削減への取組みを加速させていく。

令和3年度第1回足立区環境審議会資料

件 名	環境基金審査会の審査結果について																												
所管部課名	環境部環境政策課																												
内 容	<p>令和3年度第一期環境基金助成について、下表の1件について交付決定を通知したので報告する。</p> <p>1 募集期間 令和3年1月25日（月）から令和3年3月1日（月）まで</p> <p>2 応募件数 ファーストステップ助成 1件</p> <p>3 環境基金審査会開催日 令和3年3月24日（水）午後2時</p> <p>4 審査結果 1件を採択</p> <p style="text-align: right;">単位：円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">申請者</th> <th style="width: 55%;">活動の概要</th> <th style="width: 20%;">交付決定額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定非営利活動法人 Chance For All</td> <td>学童保育に通う小学生による地球温暖化を防ぐための活動 ・ ポスターや冊子などの作成と配布 ・ マイバッグを作成・配布し呼びかけ ・ 植物の種や苗を配布し植物を育てることを呼びかけ</td> <td style="text-align: center;">180,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 過去の応募件数及び採択件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年度</th> <th style="width: 20%;">応募件数(件)</th> <th style="width: 20%;">採択件数(件)</th> <th style="width: 50%;">採択件数のうちファーストステップ助成の件数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※30年度は29年度採択事業の継続実施のみ、ファーストステップ助成は令和元年度実施分からの開始</p>			申請者	活動の概要	交付決定額	特定非営利活動法人 Chance For All	学童保育に通う小学生による地球温暖化を防ぐための活動 ・ ポスターや冊子などの作成と配布 ・ マイバッグを作成・配布し呼びかけ ・ 植物の種や苗を配布し植物を育てることを呼びかけ	180,000	年度	応募件数(件)	採択件数(件)	採択件数のうちファーストステップ助成の件数(件)	H29	5	1	—	H30	0	1	—	R1	7	4	4	R2	9	7	4
申請者	活動の概要	交付決定額																											
特定非営利活動法人 Chance For All	学童保育に通う小学生による地球温暖化を防ぐための活動 ・ ポスターや冊子などの作成と配布 ・ マイバッグを作成・配布し呼びかけ ・ 植物の種や苗を配布し植物を育てることを呼びかけ	180,000																											
年度	応募件数(件)	採択件数(件)	採択件数のうちファーストステップ助成の件数(件)																										
H29	5	1	—																										
H30	0	1	—																										
R1	7	4	4																										
R2	9	7	4																										